

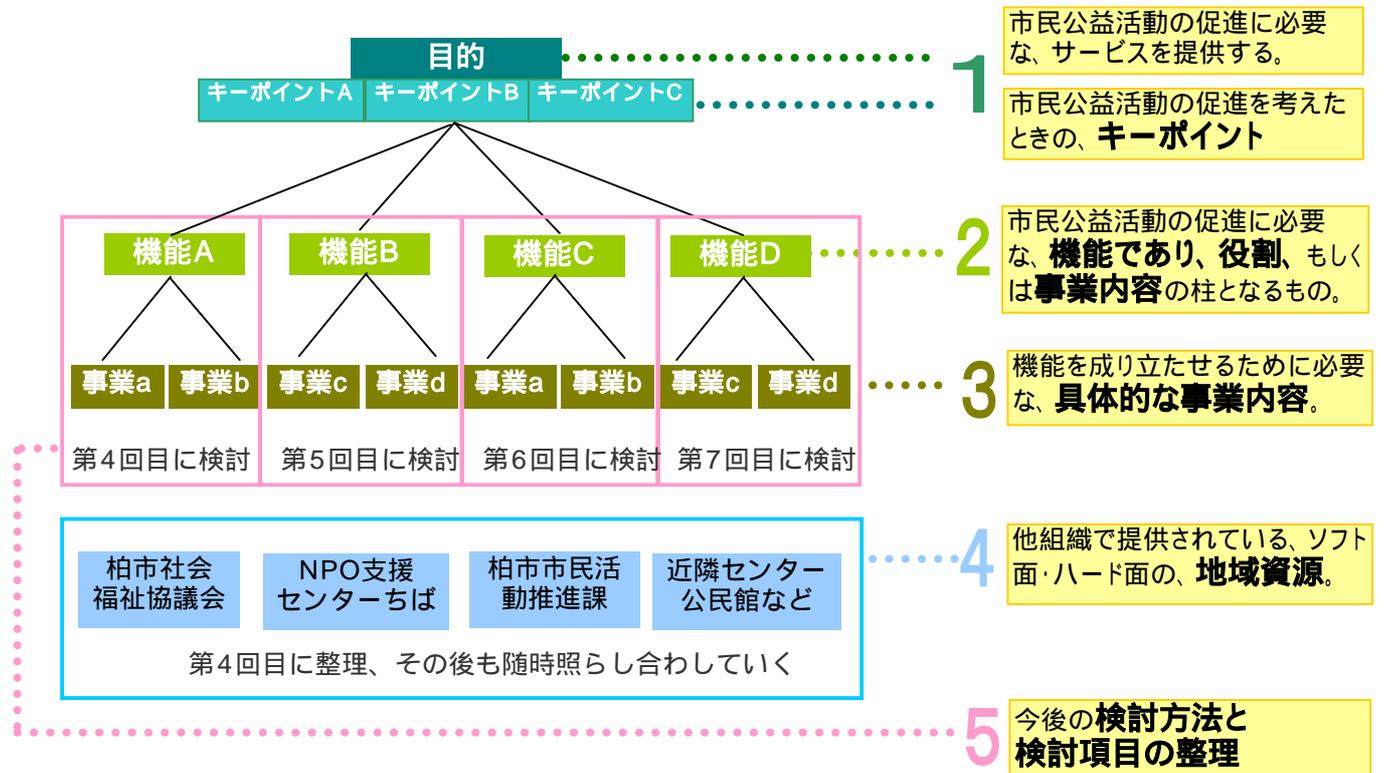
はじめに

前回、皆さんから様々な意見がでました。

ところが、それぞれの意見は、ミッションなのか、機能なのか、手段としての事業内容なのか・・・
ごちゃごちゃしてきてしまってたかと思います。

そこで・・・

皆さんから出された意見は、それぞれどの部分に当てはまるのかを整理しようと思いつくってみたのが下図です。



キーポイント、機能、事業それぞれの数(A・B・C・・・)は、例として書いていますので、ご了承ください。

お読みください

- 1 目的としては、市民公益活動の促進に必要な機能やサービス内容を検討した上で、センターの設置やサービス提供をしていくということで、前回整理されたかと思えます。また、それに付随してキーポイントとなる意見がいくつか出たので、それも合わせて表記しました。
シート「1.目的・キーポイント」をご参照ください。なお、これはたたき台です。
- 2 皆さんからの意見を振り分けてみると、「3」に当てはまる、かなり具体的なサービス内容・事業内容の例が多かったため、たたき台として、一般的に考えられる4の機能を記載しました。
シート「2.機能」をご参照ください。なお、これはたたき台です。
- 3 皆さんからあげられた、具体的な事業内容を表記しました。
シート「3.事業内容」をご参照ください。なお、これはたたき台です。
- 4 今後議論を進める上で、現状活用できる地域資源を、並べてみました。
なお、まだ未完成ですので、完成版は次回！
シート「4.既存施設リスト」をご参照ください。なお、これはまだ未完成。
- 5 今後の議論の進め方について、まとめてみました。
シート「5.今後の検討について」をご参照ください。なお、これはたたき台です。

1. 目的・キーポイント

目的

目的としては、市民公益活動の促進に必要な機能やサービス内容を検討した上で、センターの設置やサービス提供をしていく

キーポイント

A 市民公益活動団体の支援

NPO活動の活性化が大事

既存の団体の支援

すでにあるNPOとこれからNPOになる団体の支援内容の充実が大事

市民団体の育成

活動をしている人の充実を重点におくこと

B 市民活動の底辺の拡大

裾野を広げるための事業

市民活動の底上げ

市民を啓蒙，活性化

柏市の現状を考えて、少ない団体の底上げをする

社会貢献する団体を増やしたい

市民活動の底上げ

市民活動の啓発

C ネットワーク・つながりづくり・協働

人が集まること

NPO団体があつまって何かをする

つながりづくり

行政と市民の協働

行政との協働

地縁団体との協働により相乗効果を

行政と市民の協働によるまちづくり

地域資源の循環（企業・NPO・行政）

共に助け合う地域づくり

一番大きな目標はまちづくり

2. 機能

1. コーディネイト・ネットワーキング

協働（企業・行政）
地域づくり
ボランティア・インターン
．．．．．etc

2. 交流・サロン

交流サロン
定例会・学習会
．．．．．etc

3. 相談・情報提供・受発信の支援

設立相談
経営相談（設立・登記・会計・税務・労務）
資金調達（助成金・マーケティングなど）
広報・プレゼンテーション
他団体情報の提供
．．．．．etc

4. 場所・施設の提供

会議室
オープンスペース
設備・機器
．．．．．etc

3. 事業

相談・コーディネート

行政にも市民にも顔のきくようなコーディネーターや情報収集能力が必要なのでは
コーディネーターが最も必要
市や企業との橋渡しの支援
行政との調整をやる機能
ワンストップサービス（一度の手続きで、必要とする関連作業を全て完了させられること）
出会いのコーディネート
NPOの細かな相談機能が大事

ボランティアに関するサービス

- ・ボランティアセンター機能と連携
- ・ボランティアマッチング
- ・現在あるボランティアセンターの機能を最低限維持してほしい

情報提供・発信

- ・情報提供が大事
- ・各種助成金等の情報の提供
- ・情報交換等の機会の提供
- ・情報提供ではなく、情報発信することをサポートすることが大事なのは？
- ・情報センター

広報・周知活動

- ・いかにそこに関わっていない人たちに周知できるか、そういう場を設けることが必要
- ・PR機能でいうともっとほしい
- ・市民自身がSCにかかわることで成長できる場

交流・ネットワーク

- ・他の団体との交流
- ・交流の場～NPO同士・非NPO市民へのPR
- ・沙龙的なものを開くなかで、コーディネーターが見つかる
- ・100人ぐらいのイスがあって、常時何かをやることで人が集まる構造をつくること
- ・よその団体がどんなことをしているのかも知りたい。定例会か学習会をしながら
- ・人が集まるための仕掛けづくり、オープンスペース
- ・常に何らかの事業がないと、人は集まらない
- ・横のつながりは勉強になる。場所を持って話し合うことにより情報の共有ができる。
- ・常に交流・関わりをつくりだす。それにより困ったことも解決できる。
- ・分野ごとにNPOの連絡会をつくりながら、実践に教えあうこと
- ・活動している団体が集まっているところを作る

場所の提供

資料作成・印刷等の作業場（FAX・作業場）
会議室の貸し出し（会議室は遠くてもよい）
場所は近隣センターでもよい
アンケートでは駅から近く、駐車場ありの希望が多い
一定期間拠点として使えるスペース。セーフティーボックス程度のも
本を置いておけるようなスペース
オープンスペースがほしい

4. 既存の施設リスト

ソフト面・ハード面についてのサービスをしているところ

ソフト・サービスをしているところ

柏市社会福祉協議会
NPO支援センターちば
柏市市民活動推進課窓口

各組織のサービス内容は、次回、第4回目でプレゼンします。
プレゼンの際の参考資料はこちら

施設提供をしているところ

公民館
市民文化会館
近隣センター
ますおほのぼのプラザ
柏の葉
東葛テクノプラザ
保健勤労会館
社会福祉センター
ふるさとセンター

各施設の、利用料金や収容定員などについては、次回、第4回で詳細資料をお見せいたします。

その他

柏インフォメーション協会
国際交流協会

プレゼン参考資料（次回の会議で完成させたものをお持ちします）

既存組織フォーマット：ソフト面

		柏市市民活動推進課窓口	柏市社会福祉協議会・ボランティアセンター	NPO支援センターちば	
既存の市民公益団体の支援	コンサルティング・研修	組織運営	随時窓口にて相談受付	窓口対応(随時)、出前講座あり。	
		資金調達 (助成金・マーケティングなど)	市民公益活動補助金を交付 (H17予算:300万円) 協働事業提案制度		窓口対応(要アポ)団体への出前講座もあり。 メルマガ(月2回)にて情報提供 研修開催(年1回)
			随時窓口にて相談受付	窓口対応(随時)	窓口対応(要アポ)
		人材育成		全国社会福祉協議会の「ボランティア情報」等を通じたの情報提供	「エルコープNPO助成基金」の事務局としての情報提供・アドバイス
				研修:各種ボランティア養成、手話、要約筆記、点字、朗読、精神保健、在宅サービス、子育て支援等	研修:在宅介護の担い手・園芸福祉士・ガイドヘルパー・運転者講習など(年1回)
		広報・プレゼンテーション		各種ボランティア団体広報誌の紹介等	ちばNPOユースフォーラムにて、若手NPO団体の自助ネットワークづくり(定例月1回)
				各種広報・プレゼンテーション研修の紹介	クリッピングサービスによる、広報支援キットの提供 研修:チラシの作り方・伝わる広報など(年1)
		設立・登記・会計・税	随時窓口にて相談受付	専門家の紹介	窓口対応(要アポ) 専門家の紹介(随時)
他団体の紹介・情報提供	随時窓口にて相談受付	窓口対応(随時)	窓口対応(要アポ) NPOの新聞掲載情報の提供と、団体パンフの閲覧コーナーの整備		

コーディネイト	協働 (NPO・ 企業・行 政)	特定契約の登録を受け、他 部署との協働事業について コーディネイトを行う	各種(地域)ボランティア ・NPO・行政	NPO同士の協働事業とし ては、福祉・青少年育成・ まちづくりにおいて実績あ り。
	地域づく り		各種(地域)ボランティア による福祉のまちづくり (訪問・見守り・配食会 食・サロン等)	園芸福祉によるまちづくり (野田市)
			地元商店会・小学校等にお ける空き店舗活用による拠 点づくり	空き店舗活用による福祉の 拠点づくり(流山)
	ボラン ティア/ インター ンのコ ーディ ネイト	特定契約登録団体、補助金 交付団体等について広報・ HP等にて公表	随時福祉関係大学実習生受 付ボランティアコデー ネータ研修 ボランティアコデーネ ート	都市と農村の交流(印旛・ 養老・東総地区) インターンシップ・プログ ラムの実施 対象:大学 生・院生(夏~春) ボランティアのマッチング (随時)
ネットワーク推進	交流サロ ン		市内サロンリーダー・ボラ ンティア交流会他	介護の担い手育成サロン
	定例会・ 学習会		ボランティア連絡会	持ち寄りテーマのサロン (随時・大体年5回ぐらい)
			石塚がフフイア子自恋 会 福祉施設交流会	
	その他事 業	NPO活動推進自治体ネッ トワーク(自治体間)	市内24地区社協連絡会議 福祉教育指定校連絡会議	地域福祉交通を整備するた めの「移動支援ネットワー クちば」 ちばNPOユースフォーラ ムにて、若手NPO団体の 自助ネットワークづくり (定例月1回)
市民活動の底辺拡大に関する事 業	パンフ・広報・HP等によ り啓発		地区・町会単位のPR出前 講座 各種広報誌等におけるボラ ンティア活動のPR	大学への出前講座(随時) 機関紙の発行
			新聞社。行政からのヒアリ ング対応	新聞社・行政からのヒアリ ング対応
			広域後見支援センター さわやかサービス ファミリー・サポート・セ ンター	
その他			民生児童委員協議会・老人 クラブ連合会事務局	

既存組織フォーマット:ハード面

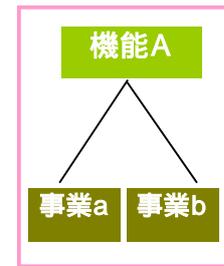
	柏市市民活動推進課窓口	柏市社会福祉協議会・ボランティアセンター	NPO支援センターちば
基本情報			
開設時期	年 月	2001年4月	2001年5月
開館日	8:50~17:20	9:00~17:00	9:00~17:00
	休日:土、日、祝、年末年始	休日:日	休日:土、日
利用者数		月 約千人(柏分室)	月 人
開設経費	-		300万円
立地	柏駅徒歩10分	沼南本部(柏駅バス16分) 柏分室(柏駅徒歩10分)	柏駅徒歩3分(5階)
床面積	-	1849.38平方m 121.34平方m	78.1㎡
駐車場	あり	あり	なし
所有者	柏市長本多晃	柏市社協 柏市	賃貸(月25万)
場所の選定	-	旧沼南社協既存施設 駅、市役所に近い。	駅から近い。柏駅常磐線沿線で昇降率が最も高い
運営経費(1年)	-	1600万(内訳:光熱費・委託費・賃借料等)	1200万円(内訳:家賃・光熱費・人件費・事業費) 人件費:エルコープ出向者含まず
会員数	特定契約:25団体	普通会员241町会、法人会員313法人、賛助会員40人・33団体、協賛会員105人	(個人) 17 (団体) 5
事業内容概要			
研修	×	ボランティア養成・育成研修(地域)市民出前講座	コンサルティング研修・NPO出前講座・講師派遣
ネットワーク推進	×	サロンリーダー・ボランティア交流会・福祉施設交流	NPO交流サロン
広報	広報かしわにて随時	社協だより	メルマガ(『i-Pla』)
相談	随時受付	県・全国ボランティア情報ボランティア相談	機関紙(『i-Pla Letter』) NPO関連全般 (初回は無料、二回目より規程料金)
活動環境整備	各種ちらし等の配布	関連ビデオ等貸し出し、関連図書閲覧	NPO関連書籍・報告書貸し出し
設備面			
貸事務所機能	×	沼南本部 柏分室×	×
フリースペース	×		×
会議室	×		会員のみ:1,000円/時間
作業室	×		×
掲示板	×		
ロッカー	×		×
メールボックス	×		×
参考書籍	×	閲覧可能	(貸し出し無料・原則会員のみ)
コピー	×	:1枚10円	:1枚10円(B5~A3白黒)
拡大コピー	×		(同上)
印刷機	×	:50枚30円	×
製本機	×	×	×
紙折機	×		×
裁断機	×		×
丁合機	×	×	×
パソコン	×	×	×
ビデオ	×		×
プロジェクター	×		×

5. 今後の検討方法

今後は、「はじめに」のところに、記した図の中の、右図の「機能とそれを支える事業内容」について、毎回一つずつ検討していくのはどうかと考えています。

その際に・・・

必ず、下の四角の中にある5つの項目について、検討をしていくことで、具体的な運営方法・運営形態・運営主体・運営コストについて議論できるようにしたいと考えています。



議論を進める上での検討項目

1. 取り組む機能 (A・B・C・D)	・・・機能 (現時点で4つ) を毎回一つずつ取り上げ考えていく
2. どんな事業内容・サービスで?	・・・「3. 事業内容」であげられたもの参考に、どんなサービスがほしいか検討
3. 誰が? どんな風に?	・・・運営方法として、どんな組織体制や他組織との連携をとるか
4. どんな資源を使って?	・・・ハード面・ソフト面の両面から何が使えて、何が不足しているのかを考える
5. どんなコストがかかって、どう、まかなうのか	・・・どのくらいの、資源 (人・もの・金) があれば運営できるのか、それをまかなうには、受益者負担なのか、他組織との連携なのかなどを考える。
6. 一言でいうとどんな特徴! ?	・・・各機能の、他にはない特徴や、独自性について考えましょう

会議の進め方・・・

なお、会議の進め方としては、グループワークではなく、全体で議論を進めていく方向で考えています。ただし、皆さんが意見を出せるような工夫と、その会議での獲得目標に向かって議論を積み重ねていけるような工夫を常にとっていきたいと思っています。

前回出された意見で、上記に当てはまるもの

3. 誰が、どんな風に?

- ・「みなとNPOハウス」のように、NPO s c c が管理運営
- ・NPO育成として、実際に活動している団体の運営やノウハウをみせる

4. どんな資源を使って?

- ・学校との連携
- ・松戸と浦安では、話し合いの過程がなかったということで、連携がとれていないようなので、つくる過程でもっと連携をとる必要がある
- ・既存のサービスとどういった形で組むのかの検討が必要
- ・インフォメーションセンターとのパートナーシップも必要
- ・より地域レベルで支援ができるように、近隣センターにくつつくような作り方がいいのでは
- ・学校の開放

5. どういった資金繰りで?

- ・市民バンク (地域資源の循環・企業・NPO・行政)
- ・資金集め / 民間企業の説得
- ・行政が撤退しても独立して運営できる仕組みづくりが必要
- ・市民税の取組みなど
- ・なるべくお金をかけない

6. 一言でいうとどんな特徴! ?

- ・キャッチフレーズが追々作ればいいのか
- ・既存のサービスの真似ではなく、柏市独自のものを
- ・何がユニークな活動になるか
- ・他にない機能
- ・柏市としての地域の特性にあったものをつくる必要がある

* その他、議論を進める上で、出された意見

- ・ ミッションを明確にしていくことが必要
- ・ 目先のニーズだけではなく、方向性も一緒に考えることが必要
- ・ ニーズからだけでなく、同時にミッションからもきちんと位置づけること
- ・ 支援対象を少し絞るのが良いのでは
- ・ 挙げられたものについて十分検討し、重点を一つ決め、発信することで働きかけ、半年でも見直し検討する仕組みを作ってはどうか
- ・ 段階的な目標をもつこと
- ・ 今後のNPOの発展を踏まえて、ニーズを探ることが大事
- ・ あるなし論を先にすべき
- ・ 地域資源の検討が必要